

適用雑草および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		使用方法	本剤およびインダジフラムを含む農業の総使用回数
			薬量	希釈水量		
日本芝	一年生雑草	雑草発生前	20～30mL /10a	200～300L /10a	全面土壌散布	2回以内

有効成分と性状

種類名	インダジフラム水和剤
商品名	スペクタクルフロアブル
有効成分	インダジフラム……19.1%
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体
荷姿	250mL×2本

人畜・水産動植物に対する安全性(製剤)

人畜毒性	経口	ラット(♀)	LD ₅₀ >5,000mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
	眼に対する刺激性	ウサギ	刺激性なし
水産動植物に対する影響	コイ		LC ₅₀ 4.74mg/L (96hr)
	オオミジンコ		EC ₅₀ 149mg/L (48hr)
	藻類(緑藻)		ErC ₅₀ 0.75mg/L (0-72hr)

⚠ 効果・薬害等の注意事項

- 使用前に容器をよく振ってください。
- 一年生雑草の発生前に有効なので、時期を失しないように均一に散布してください。
- 十分に活着した日本芝に使用してください。
- 以下の条件では使用をさせていただきます。
 - ①極端な砂質土壌 ②生育が不良な芝
- 寒冷地型芝には薬害を生じるので使用しないでください。
- 周辺の有用植物に飛散、流入しないよう十分注意して散布してください。
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさせていただきます。
- 使用量、使用時期、使用方法を守り、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 貯蔵上の注意事項

○直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管してください。

スペクタクルフロアブルを安全かつ効率的にご使用いただくために

- 十分に活着し、ターフを形成した日本芝に使用するようお願いします。
- 1年間に1回の使用をお勧めします。
- 極度の砂質土壌では使用を控えてください。
- 日本芝であっても、バッティンググリーン・カラー・痛みの激しい、または砂質土壌のティーグラウンドでの使用を控えてください。
- 様々な要因(除草剤、気象条件、作業、プレー、生育不良など)により、明らかなダメージをうけている芝においては使用を控えてください。
- 処理前後のパーティカルなどの更新作業は控えてください。
- ベントグリーンを含む寒地型芝あるいは有用作物などの周辺においては、ドリフトがないように5m以上の緩衝区を設けるとともに、風向き等に十分に注意して散布するようお願いします。
- 下方にベントグリーンなどの寒地型芝があるような傾斜地においては、使用を控えてください。
- 激しい降雨の予想される場合は使用を控えてください。
- 芝種子の播種を実施する場合には、本剤処理から12か月以上の間隔をあけてください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載内容以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。



除草剤 芝用



少ない薬量で長く効く
新しいタイプの土壌処理剤

登録商標 第5307230号



{fig. w-42}
Poa annua

Take a good look. You may never see it again.

余裕のある散布適期幅が魅力

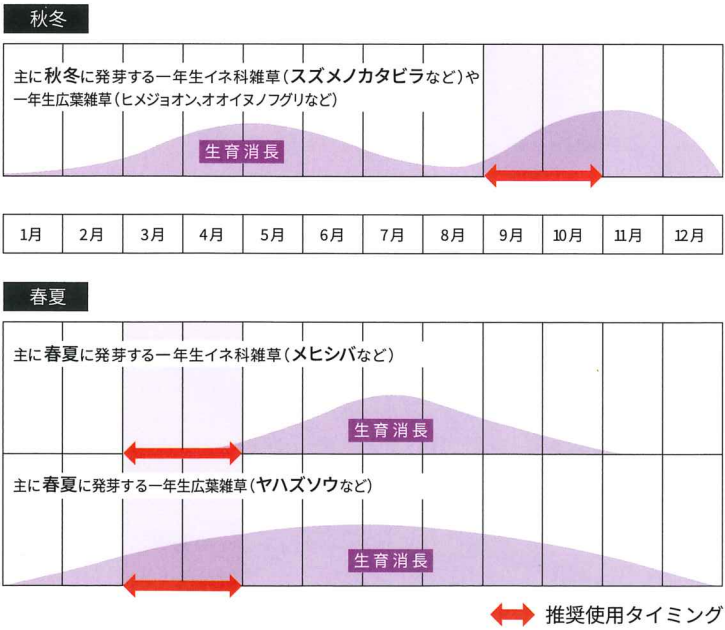
特長

- 主に雑草の根部から吸収され、植物の細胞壁を構成する不溶性セルロースの生合成を阻害
- スズメノカタビラ、メヒシバに対する安定した効果
- 一年生広葉雑草にも効果を示す、幅広い殺草スペクトラム
- 安定した土壌処理層の形成
- 春処理では90日以上、秋処理では150日以上、雑草の発生を抑制
- 使用薬量が少なく(0.02～0.03mL/㎡)、薬剤調製のしやすいフロアブル製剤
- 日本芝に対する高い安全性

フルハウスフロアブルやオレオールフロアブルとは異なる作用性を有しますので、ローテーション散布にお役立てください

散布タイミングとメリット

散布タイミング



対象雑草発生後においては、トリビュートOD、デスティニーWDGなどと組み合わせてご使用下さい。

スペクタクルフロアブルのメリット
少ない使用量で容器の廃棄量を減らせます



A剤を0.5mL/㎡で使用する場合

× 100

(1L)

B剤を0.2mL/㎡で使用する場合

× 80

(500mL)

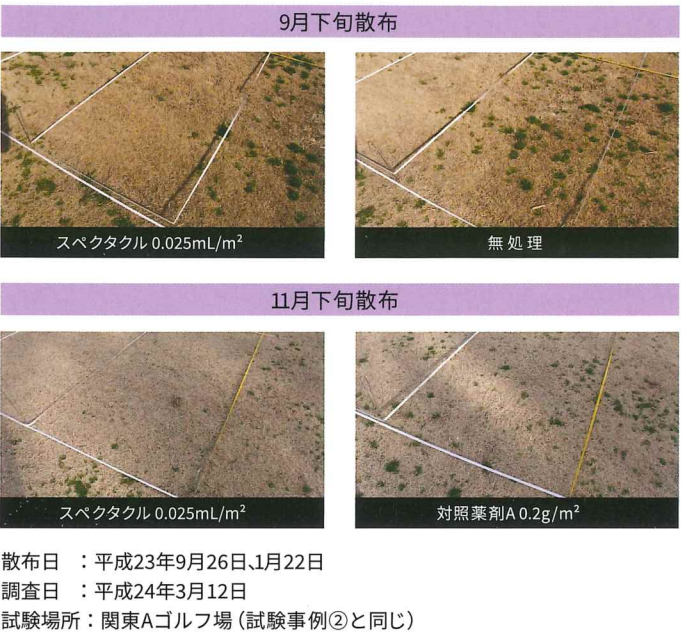
スペクタクルフロアブルを0.025mL/㎡散布する場合は5リットルですみます

× 20

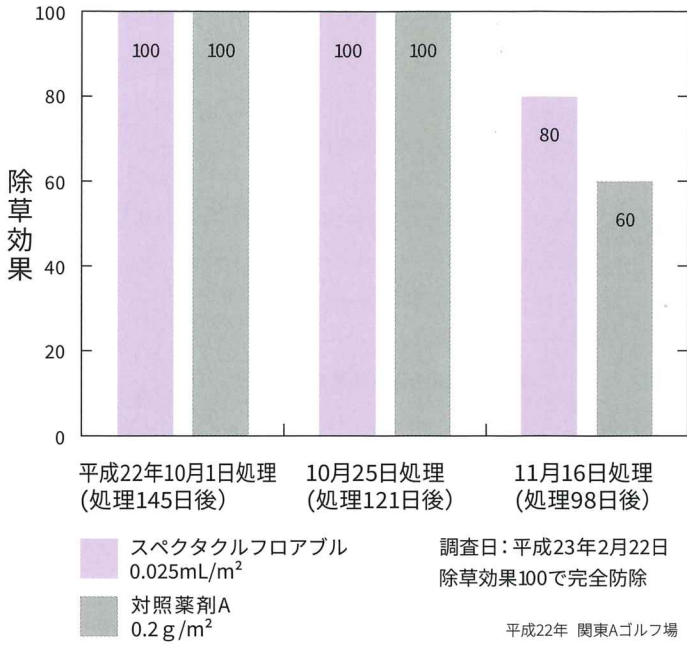
(250mL)

除草効果

試験事例①



試験事例②



メヒシバに対する除草効果(散布時期別の効果)



殺草スペクトラム

科名	和名	発生前処理 散布薬量(mL/㎡)		
		0.02	0.025	0.03
イネ科	スズメノカタビラ	●	●	●
	メヒシバ	●	●	●
	アキメヒシバ	○	●	●
キク科	オオアレチノギク	●	●	●
	アレチノギク	●	●	●
	ヒメムカシヨモギ	◎	●	●
	ヒメジョオン	●	●	●
	ハハコグサ	●	●	●
	ハキダメギク	●	●	●
	マメカミツレ	●	●	●
	オニタビラコ	●	●	●
	トキンソウ	●	●	●
	オオイヌノフグリ	◎	●	●
ナデシコ科	ハコベ	●	●	●
	オランダミミナグサ	◎	●	●
	ツメクサ	○	●	●
トウダイグサ科	コニシキソウ	○	◎	◎
マメ科	ヤハズソウ	◎	●	●
	スズメノエンドウ	◎	●	●
	カラスノエンドウ	◎	●	●
アブラナ科	タネツケバナ	●	●	●
カタバミ科	カタバミ	□	●	●
カヤツリグサ科	カヤツリグサ	◎	●	●
シソ科	ヒメオドリコソウ	●	●	●
	ホトケノザ	●	●	●
クワ科	クワクサ	●	●	●
タデ科	イヌタデ	●	●	●

●：残草0% ◎：残草1～5% ○：残草6～10% □：残草11～30% △：残草31～50% ×：残草51%以上 (日本植物調節剤研究協会委託試験結果および社内試験結果より)

！ ベントグリーンから5m以上離してお使いください

効果安定のためには、0.025mL/㎡を推奨します